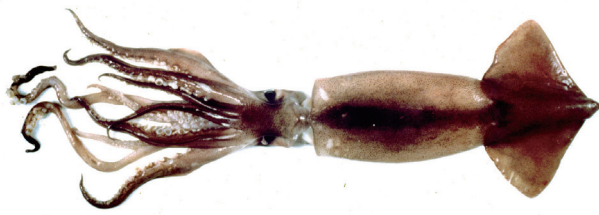


アルゼンチンマツイカ 南西大西洋

Argentine Shortfin Squid, *Illex argentinus*



管理・関係機関

管理は SAFC。評価はアルゼンチン政府及び英国政府がそれぞれの水域内で実施。

最近一年間の動き

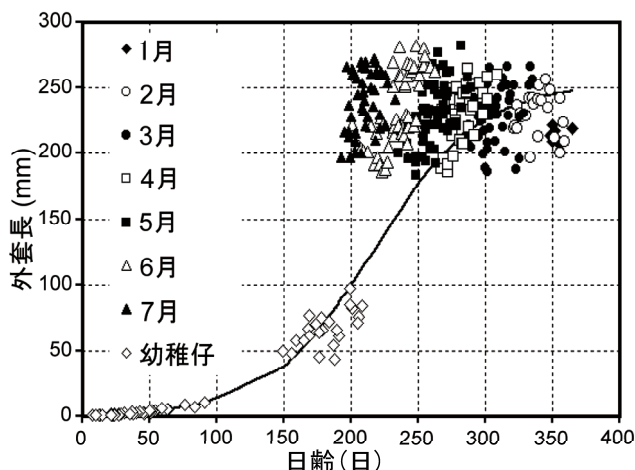
我が国のイカ釣船 2007 年漁期のアルゼンチン EEZ 内への入漁は、“裸用船”形式の入漁が廃止された事により不可能となった。また、公海やフォークランド海域への入漁もなかったことから、南西大西洋海域において 1985 年前後から始まった日本のイカ釣船は完全撤退した。2005 年に実施された水産庁調査船「開洋丸」によるマツイカ幼イカの分布量調査の結果から、極めて低水準であった状態からの回復が示唆されていた。実際、2007 年漁期には資源は急速に回復して史上空前の豊漁となる一方、供給過多により国際市場での大幅な価格低下をもたらし、アルゼンチンでは出漁を見送る船もみられた。

生物学的特性

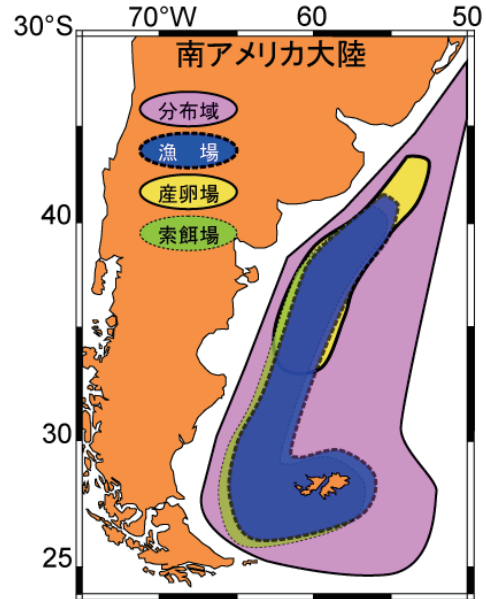
- 寿命：1 歳
- 成熟開始年齢：約 8~12 ヶ月
- 産卵期・産卵場：1 年中（主に秋から冬）
アルゼンチン沖大陸棚斜面域
- 索餌場：アルゼンチン沖大陸棚上
- 食性：中深層性魚類、オキアミ類、端脚類
- 捕食者：メルルーサ（幼イカ期）、海鳥など

利用・用途

するめ、塩辛、まぐろはえ縄の餌等



”夏季産卵系群”の雌の成長曲線各点は生まれ月および幼稚仔期 (◇) を示す(Brunetti et al.1998a より)



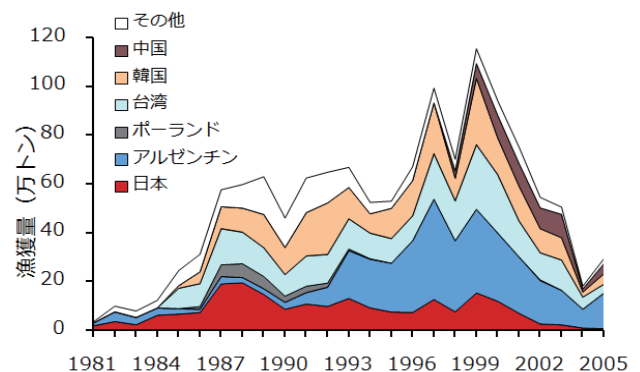
アルゼンチンマツイカの分布図

漁業の特徴

主要な漁業国は、日本、韓国、台湾、アルゼンチン等である。1970 年代に沿岸国のアルゼンチン等によって年間数千トンが漁獲されていたが、1980 年代に入りポーランド、日本等の遠洋漁業国のトロール船による本格的な操業が開始された。1980 年代の半ばに日本、台湾及び韓国のいか釣船が操業を開始した。現在でもいか釣船による漁獲がほとんどである。本種の盛漁期は南半球の夏から秋(2 月から 6 月)で、漁場は季節とともに南北に移動する。

漁業資源の動向

1980 年代後半から総漁獲量は増加し、100 万トンに達するような年を除くと、近年まで 50~70 万トン前後で安定していた。日本の漁獲量も 1990 年代は約 10 万トンで安定する一方、沿岸国のアルゼンチンの漁獲量が急増を始め 30~40 万トンに達している。しかし、2004 年には総漁獲量は約 14 万トンに低下したが、2006 年に増加傾向が認められ、2007 年に資源は高水準となり公海を除くアルゼンチン EEZ およびフォークランド FICZ 内での漁獲量は約 40 万トンに達した。



アルゼンチンマツイカ国別漁獲量 (1981~2005 年) (データ：FAO 2007 より)

資源状態

1994 年から 1996 年にかけて低水準となったが、その後、資源水準は回復に転じ、1999 年にピークに達した。しかし、翌年には再び資源量は急激に減少し、2004 年には資源は枯渇の危機に瀕した。2005 年から徐々に増加を始め、以降 2007 年にかけて資源水準は急速に回復し高水準となった。

管理方策

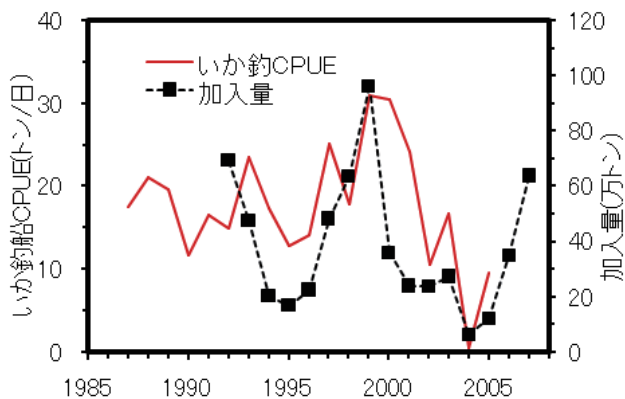
本種は、ある程度の再生産関係があると想定し、「来漁期の資源にまわす親を一定量 (40%) 確保する施策」(相対逃避率による再生産管理)をとっている。南方(南緯 44 度以南)の本種資源は、入漁隻数の制限と解禁日(2月1日)に加え、相対逃避率の目標値を 40%となるようにリアルタイムで資源と漁業を管理している。この目標逃避率は毎年必ずしも厳格に施行されてきたわけではなく、わずか 11% (残した産卵親イカ量はわずか 2.6 万トン)に低下した年もあった。このような絶対逃避量の減少による次年度加入量の低下の危険性を避けるため、2001 年には相対逃避率管理に加え、絶対的な逃避量 4 万トンを設定した。なお、アルゼンチンだけで管理する北方海域(南緯 44 度より北)では、入漁隻数と漁期の制限(5月1日~8月31日)による漁業管理を実施している。

資源評価まとめ

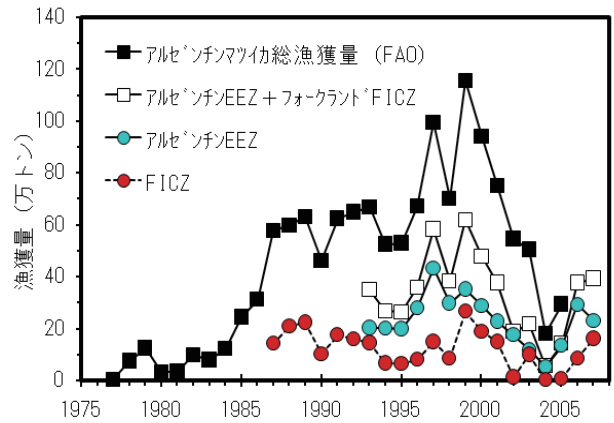
- 南方資源の評価機関はア英国両政府の 2 国間漁業委員会 (SAFC) が実施
- 漁期前の底曳網による生物量調査および Leslie-DeLury 法により評価
- 資源水準は高位で増加

資源管理方策まとめ

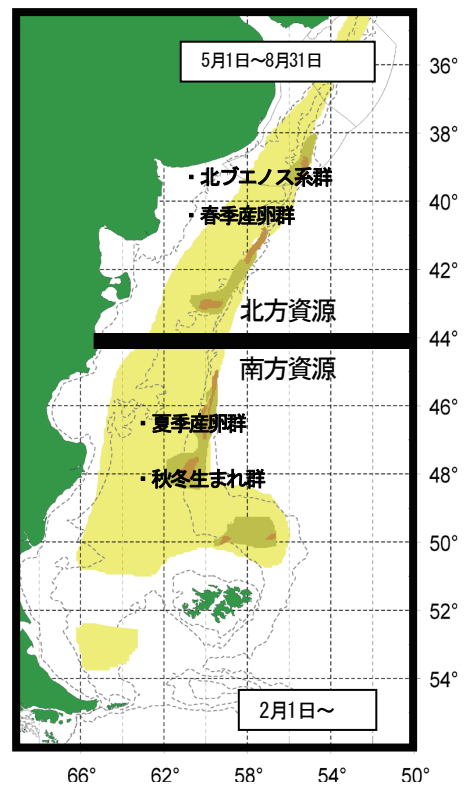
- 相対逃避率 40%及び絶対逃避量 4 万トンを維持
- 前年の漁獲実績による入漁隻数の制限
- 解禁日と禁漁期(終漁日)の設定
- 南北資源ともに基本的には努力量管理方策



資源量水準の変動。日本のいか釣船の CPUE とアルゼンチン調査船による加入量(初期資源量)の推定値



管理海域別の漁獲量の変遷



本種の季節発生群(系群)と南緯 44 度を境とした資源分割管理

アルゼンチンマツイカ(南西大西洋)の資源の現況(要約表)

資源水準	高位
資源動向	増加
世界の漁獲量 (2001~2005 年)	18.1~75.1 万トン 平均:45.3 万トン
我が国の漁獲量 (2001~2005 年)	0.7~7.0 万トン 平均:2.3 万トン